

科目名	異文化間コミュニケーション論 特殊研究	担当者	ニンダ 西田	ツカサ 司	期間	通年	単位数	4
-----	------------------------	-----	-----------	----------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>異文化間コミュニケーション研究のための博士課程を置いている大学は、アメリカにたくさんあります。理論の研究や、特定テーマの研究が行われています。</p> <p>本講座では、文化心理と価値観のコミュニケーション研究について学びます。それぞれの研究は異文化間コミュニケーション研究の特定テーマの研究です。</p> <p>文化心理の研究も、個人主義と集団主義の価値観の研究も、それぞれ 40 数年の調査・研究の蓄積があり、異文化間コミュニケーション研究に欠かせない研究です。</p>		
到達目標	<p>到達目標は、教科書として選定した専門書を批判的に読み、この 40 数年の研究を概観します。領域について、まず、学び、要約という形でレポートの前半を作成します。</p> <p>レポートの後半は、考察です。考察では、前半の要約で用いた専門用語を用い、自分の知識や経験について述べることができるかどうか、考察のレベルを判断する基準になります。</p> <p>換言すれば、レポートの前半(要約)では、領域の大半の専門用語を含んだ要約になっているか、レポートの後半(考察)では、領域の専門用語を用いた考察になっているかが、到達目標となります。</p>		
学修方法	<p>上記の到達目標を達するには、以下の学修をします。</p> <p>要約と考察という形で提出されたレポートを添削することによって、学修の状況を確認します。添削により指摘した部分につき、加筆、修正し、返送されてくる再提出のレポートを確認することにより、領域が正確に把握できているか、確認します。</p> <p>基本的に、1 回の添削により、評価対象になるレポートを作成することができますが、必要な場合は、2 回あるいは 3 回の添削指導も行います。</p>		
スケジュール	<p>提出時期は、9 月中旬と 1 月中旬となります。</p> <p>それぞれのレポートの作成に当たっては、添削指導を行います。つまり、1 回目の草稿を受け取り、1 週間ほどを費やしコメントを付け、戻します。添削された草稿を受領したら、コメントを参考に、加筆修正し、2 回目の草稿を提出します。</p> <p>十分に余裕をもってレポートの提出に臨んでください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの評価は全体で、80%とします。1つのレポートに、20%を配分します。
	平常評価	20%	草稿への加筆、修正のコメントに対する対応を評価します。1つのレポートに、5%を配分します。
履修者への要望	<p>基本的なことですが、教科書の課題範囲をよく読み、また、参考図書として挙げられている文献も、適宜理解を進める上で、よく読んでください。その上で、要約と考察をしてください。</p> <p>余裕のある人は、文化と心理の領域では、Matsumoto, D. (マツモト)、そして価値観の領域では Triandis, H. C. (トリアンディス) の原書を英文で読んでみるのもいいでしょう。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： マツモト, D. 教材名： 『文化と心理学：比較文化心理学』（北大路書房，2001年）ISBN:978-4-76-282220-9 2,500円+税
	文化と自己，感情という構成と，文化と言語，コミュニケーションという構成でもって，本書のテーマの心理とコミュニケーションを論じてあります。 心理学の研究に，文化的要因を認める必要性が強調されているところから，異文化間コミュニケーションの領域でもよく読まれている文献です。
参考図書	北山忍『自己と感情』（共立出版，2003年）ISBN:978-4-32-002859-3 2,600円+税 Matsumoto, D. (2000). <i>Culture and Psychology: People around the World</i> . Wadsworth: USA. ISBN 0-534-35436-X
履修上のポイント	本書は40数年に渡る研究の翻訳書なので，翻訳された類書を探すのは難しいが，本書をじっくり読むことや，英語で書かれた類書を読むことは，この領域を学ぶことでは，たいへん意味のあることです。まず，レポートの要約の作成に全力を尽くしてください。その後に，自分の知識や経験をもとに，考察してください。
レポート課題 1	第1章～第4章を要約し，その中から1つのテーマ(章)について，知識や経験をもとに考察せよ。要約では，重要な用語，文化，自己概念，感情の表現について言及すること。 留意点 ：要約は4,000字でまとめよ。考察は，1,000字でまとめよ。
レポート課題 2	第5章～第7章を要約せよ。特に，効果的なコミュニケーションについて言及すること。さらに，1つのテーマ(章)について，考察せよ。考察では，言語能力あるいは異文化間コミュニケーション能力に関する，自分の知識や経験をもとに考察せよ。 留意点 ：要約は3,000字でまとめよ。考察は，1,000字でまとめよ。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： トリアンディス, H. C. 教材名： 『個人主義と集団主義』（北大路書房，2002年）ISBN:978-4-76-282241-8 3,600円+税
	本書は，個人主義と集団主義の理解について，1980年代以降，もっとも影響を及ぼした書物です。本書を読むことによって，個人主義の定義，個人主義の測定，社会及び文化への影響について，総合的に理解することができます。
参考図書	Triandis, H. C. <i>Individualism & Collectivism</i> . Westview: USA. 1995 ISBN:978-0-81-331849-3 (Hardcover)
履修上のポイント	個人主義と，対照する集団主義という価値観と行動は，人の傾向として，また，集団の傾向として議論されています。これらの二つの議論について，本書をよく読み，考えてください。
レポート課題 1	第1章～第3章を要約せよ。アペンディックスを参考に，要約せよ。また，日本人の個人主義について，知識や経験をもとに考察せよ。 留意点 ：要約は3,000字でまとめよ。考察は，1,000字でまとめよ。
レポート課題 2	第4章～第7章を要約せよ。特に，個人主義の社会，文化的な影響について言及せよ。また，日本人の集団主義について，知識や経験をもとに考察せよ。傾向の測定についても，言及すること。 留意点 ：要約は4,000字でまとめよ。考察は，1,000字でまとめよ。